

「新型コロナウイルス感染症に関する社会の変化調査」の結果報告

先日は、「新型コロナウイルス感染症に関する社会の変化調査」に回答いただき、ありがとうございました。アンケートの分析をいくつか行いましたので、その結果をご報告させていただきます。ご参考になれば幸いです。

奈良女子大学

安藤香織・梅垣佑介・竹橋洋毅

アンケート結果

8月7～11日に第1回調査を実施し、1645名の方が回答してくださいました（有効回答数1555名）。女性が786名（50.5%）で、未婚が641名（41.2%）、既婚（離別・死別を含む）が914名（58.8%）でした。回答者の職業は会社員が46.9%、専業主婦・無職が25.8%、パート・アルバイトが14.3%、その他が13.1%でした。回答者の最終学歴は、中学校が1.7%、高等学校が26.5%、専門学校・専修学校が12.3%、短期大学・高専が9.5%、大学が43.7%、大学院が5.7%、その他が0.6%でした。

表1 年代別・性別の回答者数

	18-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
1回目	155	158	155	156	150	156	150	156	159	160	1555

第1回調査の分析結果

新型コロナウイルス感染拡大による生活の変化

新型コロナウイルス感染拡大によって、生活に影響があったかについての質問の回答です。最も「影響を受けた」との回答が多かったのは「趣味の活動ができなくなった」で、次いで遠方の家族に会えなくなったこと、3番目に世帯収入が減ったことが挙がりました。「世帯収入が減った」という人は26.4%で、「自分または配偶者の仕事がなくなった」も8.0%あり、経済的にも深刻な影響があることが示唆されました。

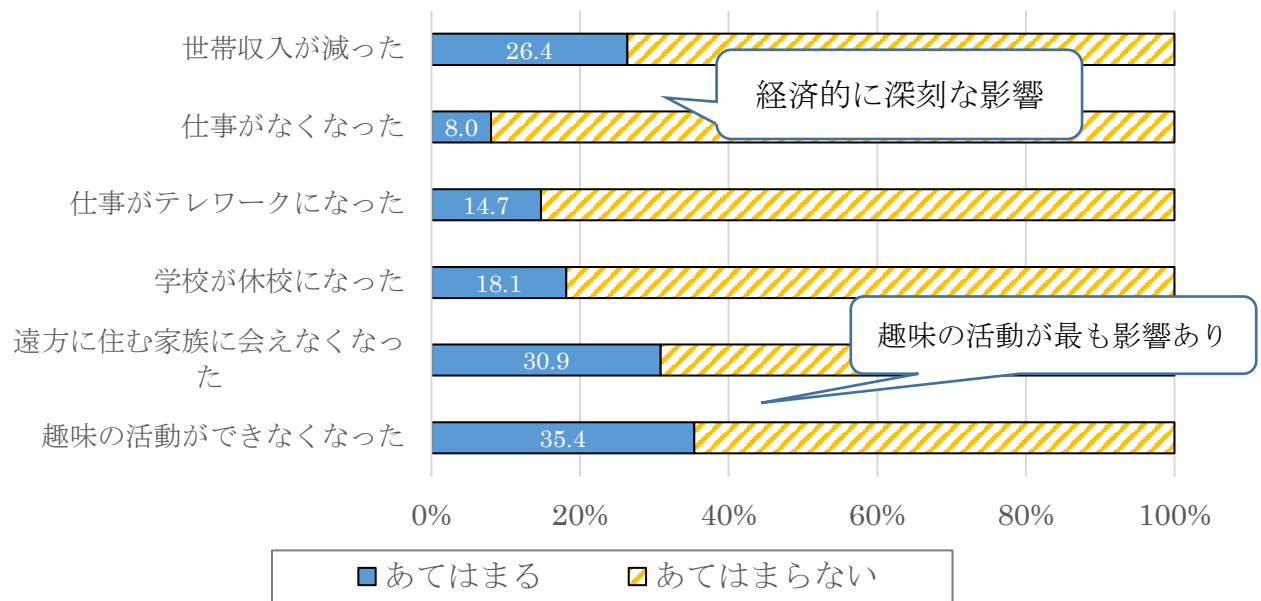


図 1 新型コロナウイルス感染拡大による生活の変化

新型コロナウイルスに対するリスク認知、不安

新型コロナウイルスに対するリスクや不安をどの程度感じているか尋ねました。リスク認知は「恐ろしさ」「死に至る可能性がある」などの 4 項目で測っています。

リスク認知も不安も、男性より女性の方が高いことが確認されました。いずれの回答も 1~5 段階のうち 3.5~4 と高い値をマークしており、新型コロナウイルスに対するリスク認知、不安感情は全体的に高くなっていました。男女ともに「社会全体への影響への不安」が最も高く、経済状況の悪化や医療崩壊といった社会全体の変化に対する心配が大きいことが読み取れます。

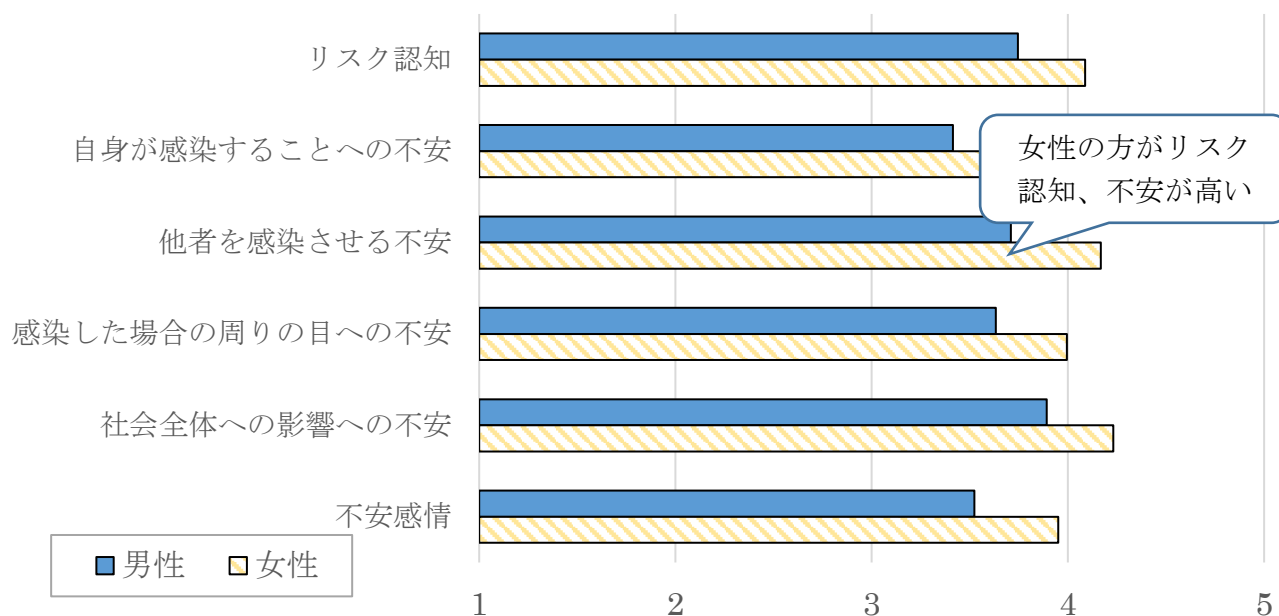


図2 リスク認知とさまざまな不安の平均値

新型コロナウイルス感染確率の予想

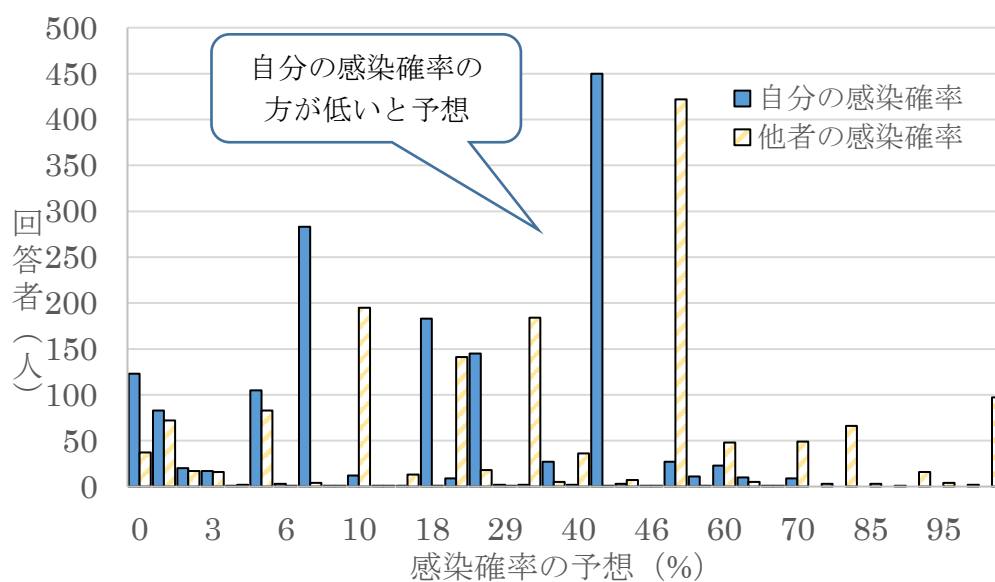


図3 自分の感染確率と他者の感染確率の予想

新型コロナウイルスに感染するリスクを 0～100%の範囲で予想してもらった結果、自分の感染確率の予想は他者の感染確率の予想よりも低く分布していました。多くの人が、自分が感染する可能性を楽観的に捉えていました。感染確率の予想の平均値は自分が 27.1%、同じ都道府県に居住する一般的な人の平均値は 38.0%でした。実際には、調査直前の 2020 年

7月の感染確率は0.014%であり、それよりはかなり高い予想となっています。

新型コロナウイルスへの感染対策の実施

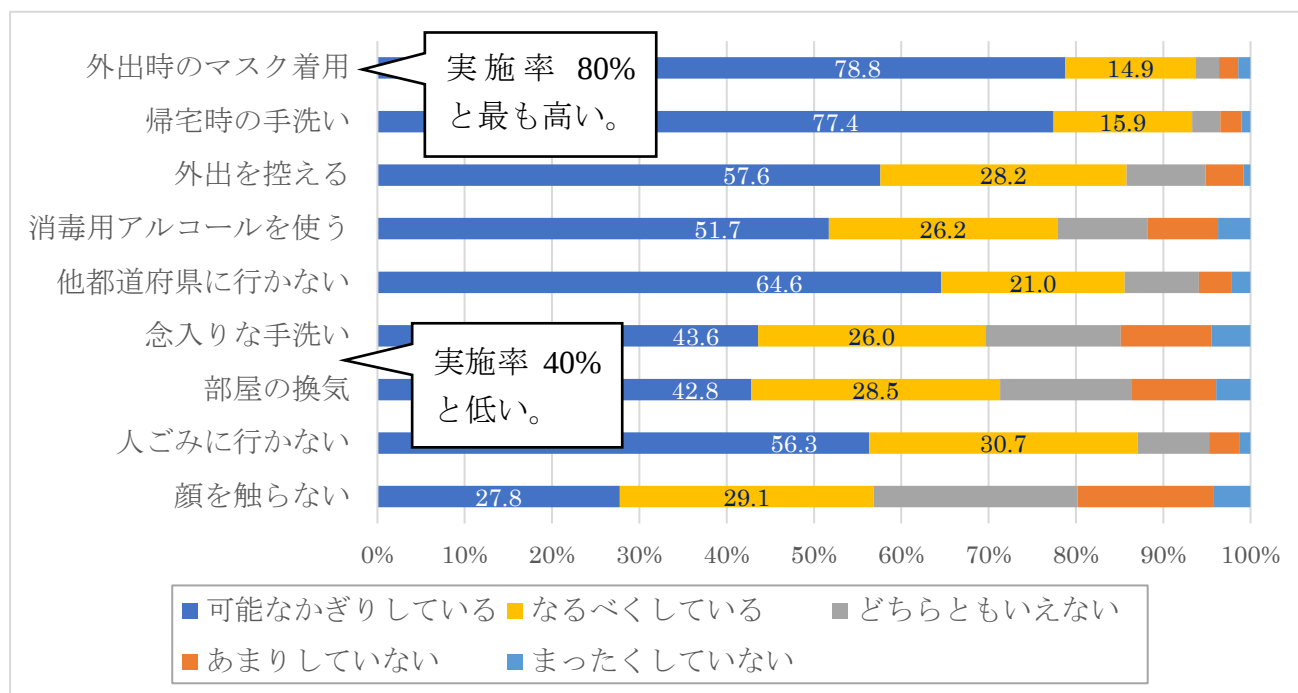


図4 新型コロナウイルスへの感染対策の実施の程度

新型コロナウイルス感染対策を、それぞれどの程度行っているか尋ねました。実施率が高いのは「外出時のマスクの着用」と「帰宅時の手洗い」で、「可能な限りしている」の回答が約80%となっていました。次いで、「外出を控える」「他の都道府県に行かない」「ひとごみに行かない」が高くなっており、「可能な限りしている」が60%前後となっています。対して実施率が最も低い行動は「顔を触らない」で、目や鼻、口などを触らないことを感染対策として意識している人が少ないと考えられます。「入念な手洗い」と「部屋の換気」も相対的に実施している人が少なく、「可能な限りしている」と回答した人が約40%でした。マスク着用と手洗いは感染対策として8月時点でかなり定着している一方で、実施率が低い行動もあることが示されました。

新型コロナウイルスに関するストレス

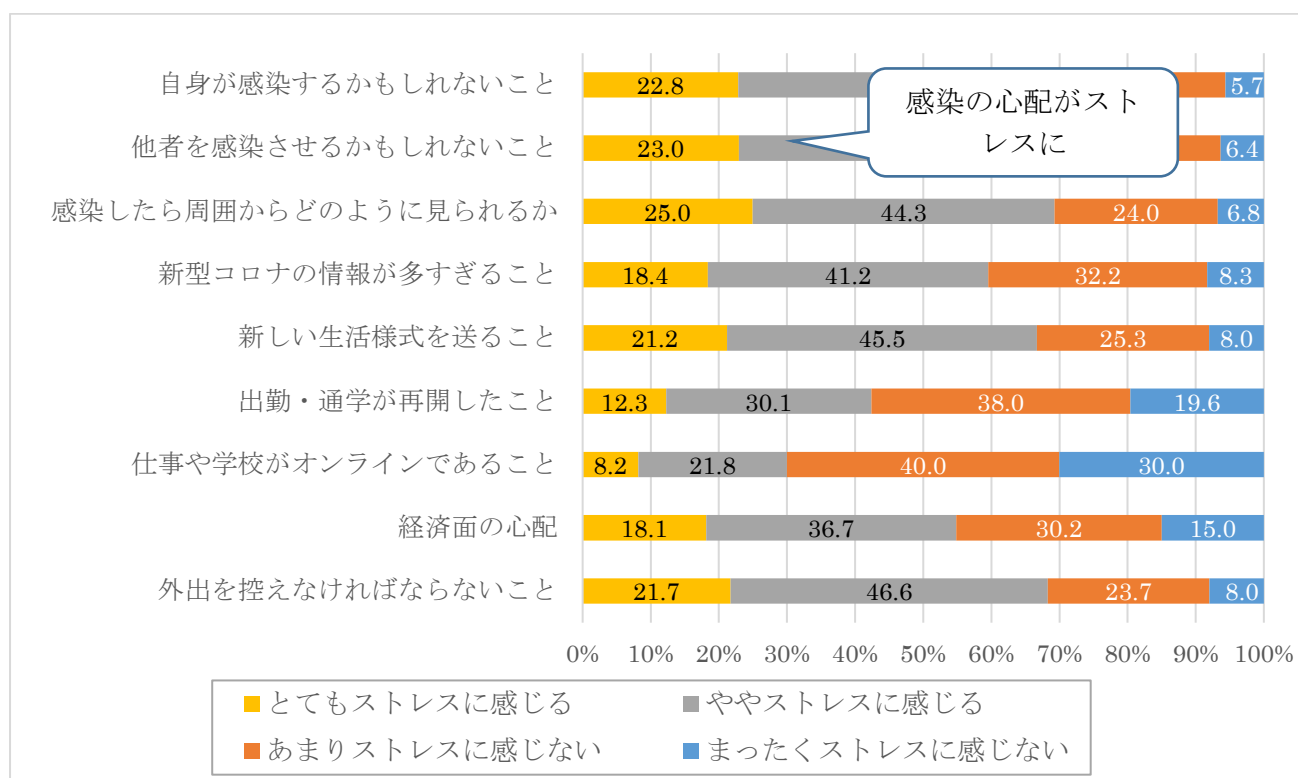


図5 新型コロナウイルスに関してストレスになっていること

新型コロナウイルス感染に関して人々がストレスを感じていることを尋ねました。その結果、「とてもストレスを感じる」および「ややストレスを感じる」と回答した人が60%を超えたのは、自分の感染や他者を感染させること、感染した場合の周りの目、新しい生活様式を送ること、外出を控えなければならないことでした。新型コロナウイルスの感染に関することは人々にとってストレスとなっていることが伺えます。また、外出を控えないといけないこと、常にマスクを着用するなどの新しい生活様式もストレス源となっていました。

「仕事や学校がオンラインであること」は約3割の人が、「出勤・通学が再開したこと」は約4割の人がストレスに感じていました。仕事や学校がオンラインであることに対してストレスと感じるとの回答の方が少ないのは、調査時点の8月においてはすでにオンラインでなくなっているためであるかもしれません。経済面については約5割の人がストレスとして感じていました。

新型コロナウイルス感染拡大による人間関係の変化

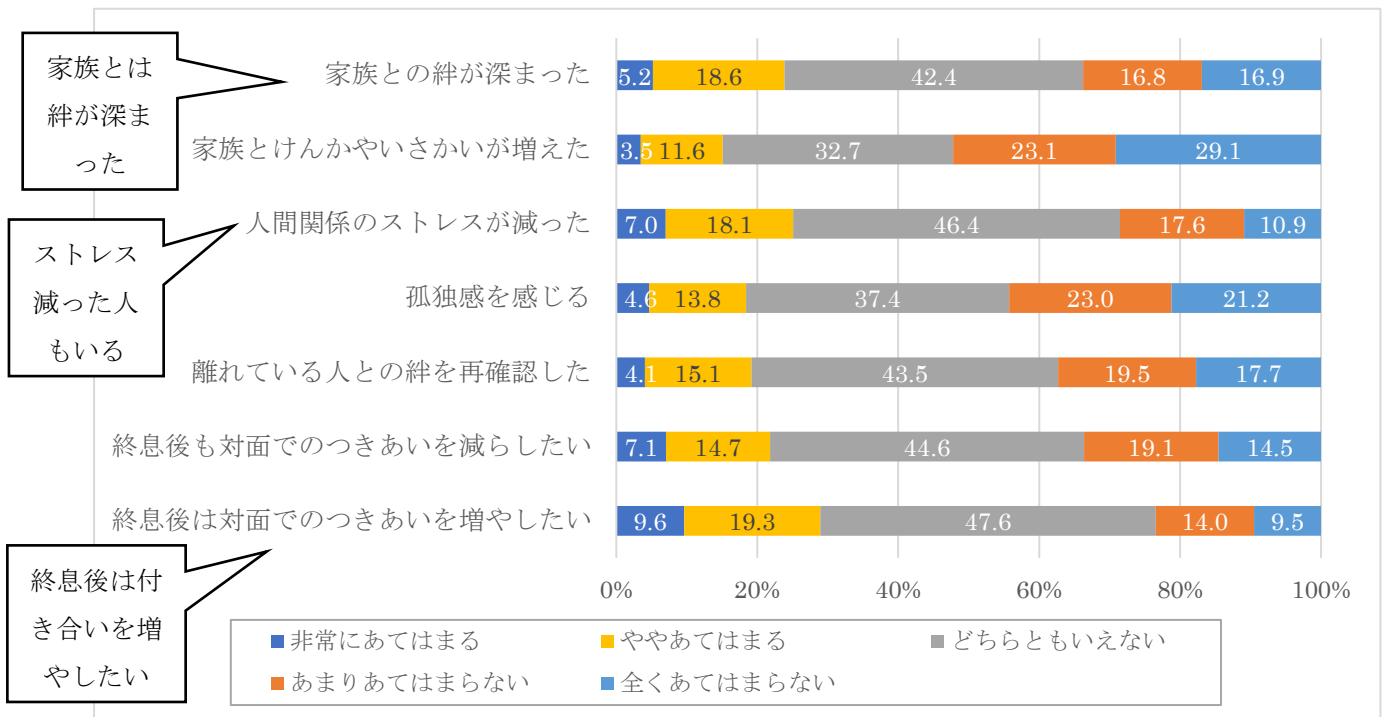


図6 さまざまな人間関係の変化

新型コロナウイルス感染予防のため、外出を控える、人と会うことを控える、などの行動が必要になりました。それにより、人との距離感は変わったのでしょうか。コロナ禍における人間関係の変化について尋ねました。

全体的に、関係変化があったと答えた人は 20%前後で、項目間に大きな違いはありませんでした。「孤独感を感じる」に「あてはまる」とした人は約 2 割であるのに対し、「人間関係のストレスが減った」との回答も 25.1%ありました。家族との関係については、「絆が深まった」は「あてはまる」が 23.8%であるのに対し、「けんかやいさかいが増えた」は 15.1%であり、「絆が深まった」の方がやや多くなっています。コロナ禍における人間関係の変化は、マイナスの側面だけでなく、家族との絆が深まった、オンラインによる勤務などで人間関係のストレスが減ったなどプラスの側面もあったことが伺えます。

終息後のことに関しては、「対面でのつきあいを増やしたい」に「あてはまる」とする人は 28.9%、「対面でのつきあいを減らしたい」は 21.8%であり、「対面でのつきあいを増やしたい」の方が上回っていました。

新型コロナウイルスとの共生や終息に関する意見

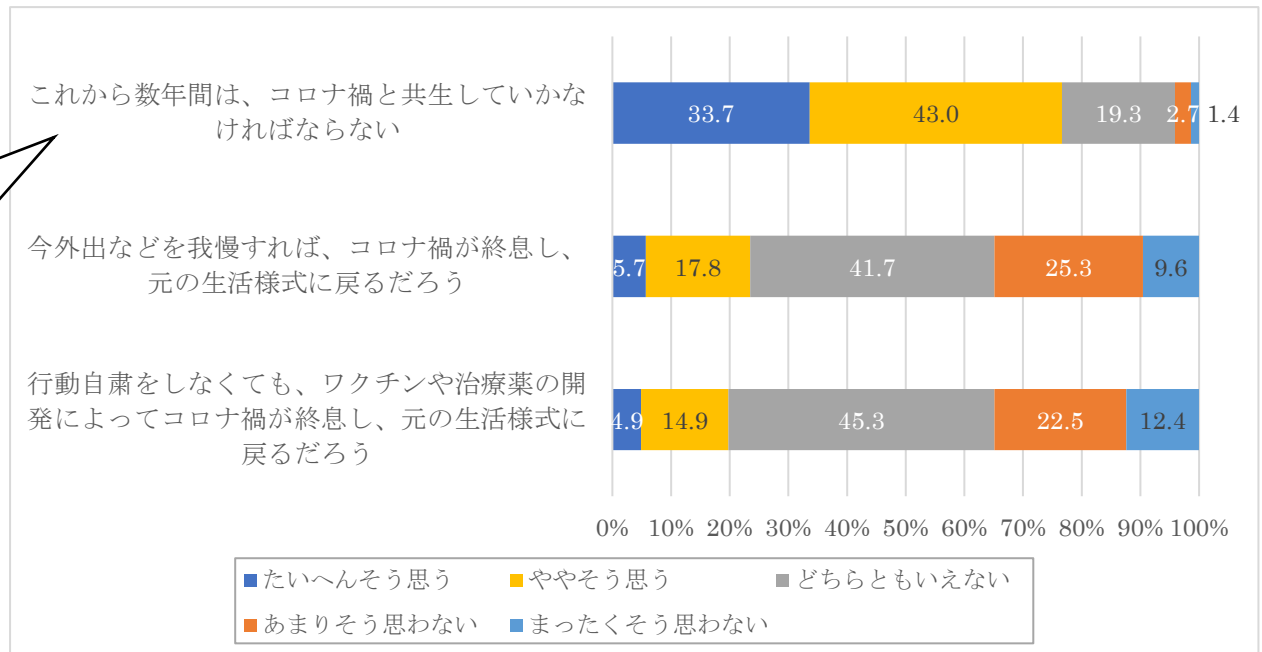


図7 新型コロナウイルスとの共生や終息に関する意見

新型コロナウイルスとの共生や終息に関して、どのように考えているか尋ねました。

「今後数年間はコロナ禍と共生していかなければならない」については「そう思う」とする回答が約8割となっており、多くの人が新型コロナウイルスとの共生を予想していることが分かりました。対して、いま自分たちが現在の生活様式に我慢していれば、あるいはワクチンや治療薬が開発されれば元の生活様式に戻るだろうと、コロナ禍の終息を予想している人は少なく、「そう思う」とする回答は約2割でした。